



* 80周年記念号 *

子どもがまんなかの社会の実現をめざして

こころのねっこ

* cocoro no necco * Vol. 7



◎ この冊子・私立幼稚園に関するお問い合わせ

公益社団法人 **京都府私立幼稚園連盟** 親子関係研究所
〒600-8424 京都市下京区室町通り高辻上る山王町561番地 京都私学会館内
TEL: (075) 344-0771 FAX: (075) 344-4177 HP: www.kyoshiyoh.com/renmei/
発行日/2023年5月

モバイルサイトは
こちらから



京都府私立幼稚園連盟 検索

巻頭 こころのねっこを育てよう。

特集 食べること、育つこと

80周年記念対談 私を育てたところのねっこ ~愛することで花開く~

活動写真 こころのねっこ SHOW

Let's Play おとうさん、おかあさん いっしょにあそぼうよ。

京都の私立幼稚園の子育て情報誌

こころのねっこを 育てよう。

子どもとの生活は、私たち大人に幸せをもたらしてくれます。子どもがいること、自分(親)を愛してくれる存在が目の前にいてくれることは、かけがえのないことです。子どもの成長に心揺さぶられたり、うれしくなったり、ときには焦ったり心配することもあります。子ども達は一人ひとり違う個性を持ち、思考も行動も育ちのペースも様々なのです。「子どもと共に生活している今日はいいな、素敵だ」と思って目の前の子どもと一緒に暮らしを楽しみ、子どもの小さな成長を大きく喜び過ぎていけば、春が来ると草木や花が芽吹くように、子どもの成長と共に、自分自身もかならずひとまわり大きく成長しています。先々の心配をし過ぎないで、子どもと共に過ごす親子の「いま」を大切に。そのことがその子の人生の養分を蓄える「こころのねっこ」を育むことになります。

京都府私立幼稚園連盟は今年80周年を迎えます。80年間変わらず、京都の子ども達と保護者の子育てを応援し、子どもの育ちを支えています。

毎日がたからもの

一日一日が成長の時間。遊びに夢中になっているときはそっと見守ってね、不安になったらパパやママのもとへ行くからね。没頭しているときはその子の成長の芽が伸びているとき。そして、抱っこしてほしいと思ったときに抱っこしてもらえた安心感や幸福感は、心を育む栄養になります。とは言え、一日中一緒にいると疲れてしまうことも。そんなときは一人でがんばり過ぎないで。まわりには、幼稚園の先生や友達、同じ趣味の仲間…、日々の子育ての大変さを受け止めてくれる人がいます。ときには手をかりて子どもと少し離れてみると、会いたい、愛しいと思える気持ちが高まることも。私たち幼稚園は、子育てで生じる喜び、不安や悩みについて一緒に思い、考えていきたいと思っています。

外で遊ぼう！ 仲間がいるといいね

室内で泣いていても、屋外に出ると泣きやむことがあります。空間が広がり、空気感が変わり、気持ちが解放されることで、ありのままの自分でいられるからでしょう。外で遊ぶなかで“なんだか楽しい”という気持ちになり、自然が教えてくれることもたくさんあります。子どもはそうしたなかで「ものの本質に心の目を向ける」という力を身につけていくのです。

最後は「よかったね」で締めくくろう

子どもにとって、大人が言ったことを一度で理解するのは難しいことです。子どもに覚えてほしいことは、焦らずに何度でも、新しい気持ちで伝えていきましょう。ときに少し危ないことをしてドキッとすることがあれば、「危なかったね、大きなケガにならなくてよかったね」とていねいに優しく声をかけてあげることで、子どもにも伝わるはず。「よかったね」で一日が終わると、子どもも自分も明日へのスタートが気持ちよいものとなります。

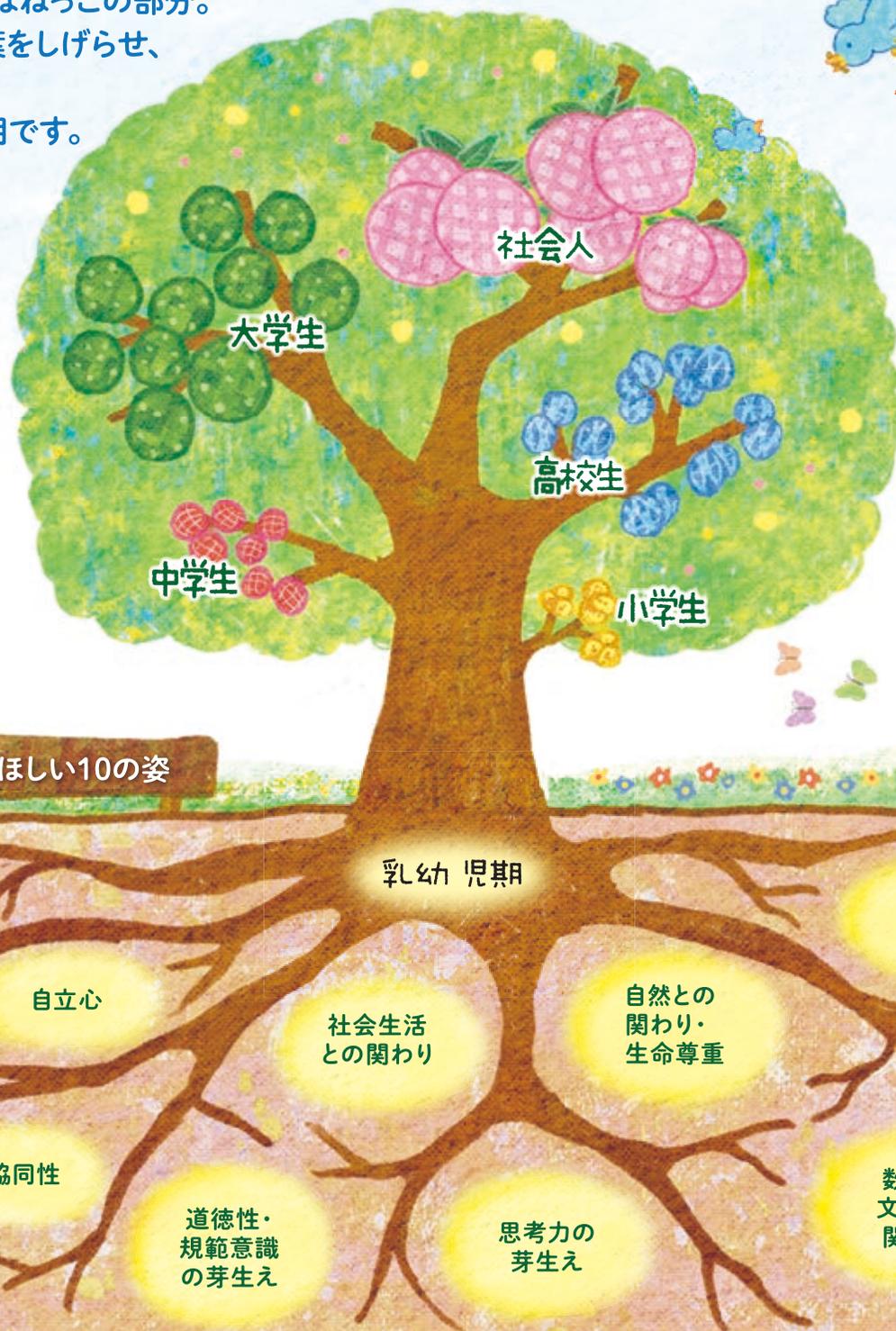
人の育ちを木にと考えると、乳幼児期はねっこの部分。
 しっかりと育まれたねっこは、やがて葉をしげらせ、
 実をつけられるようになります。
 乳幼児期は、ねっこが育つ重要な時期です。

乳幼児期は、10の姿のような目に見えない力=非認知能力を育むことが大切です。非認知能力を大切にすることで認知能力(読み書き、計算、知識など)も育っていきます。乳幼児期(幼稚園)の生活を通して、目に見えない力をじっくりと養い、学校教育への基礎を育てていきましょう。

学んだことを人生や
 社会に生かそうとする
学びに向かう力
 人間性など

実際の社会や
 生活で生きて働く
知識及び技能
 未知の状況にも
 対応できる
思考力、判断力
表現力など

学校教育とは：幼稚園から高校の学校教育を通して
 上記3つの力をバランスよく育みます。



乳幼児期に大切にしたいポイント!

遊びは乳幼児期にふさわしい学び

遊びはやってみたい!こうしたい!という本人の自発的な思いからはじまり、ヒト・モノ・コトと直接関わりながら、その中で頭も心も体も動かして、学んでいきます。まわりの大人たちは、よりよい環境を用意して、子どもたちが自ら育つように見守り、ときにはいっしょに、そのときを楽しんでください。

生活リズムが大切

毎日の暮らしの中で、遊ぶ・食べる・寝るといった生活リズムが整っていると子どもは機嫌がいい(脳が喜んでいる)のです。親子で生活の時間帯が違って、食べることについては、1日1回でも家族がいっしょに時間と場を共有できるといいですね。食卓がともにあることで栄養だけでなく心のエネルギーが補給され、コミュニケーション力が形成されます。家庭は「戻ってくれば安心」と思える場であり、エネルギー補給の場であることを、心と体で知ることが乳幼児期にはとても大切です。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

乳幼児期は基本的な生活や自発的な遊びを通して10の姿の基礎をじっくりと養うことが大切です。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、幼稚園と小学校で共有しています。

食べること、育つこと



「食べること」は、「生きること」。食べることは人にとって大切な営みです。とりわけ、子育てに関する「食」、赤ちゃんのための「食」に関しては、より関心が高いのではないのでしょうか？ここでは「食育」について、調理法や栄養ではなく、子育ての観点から『家のごはん、子どもが育つこと』について、一緒に考えてみましょう。



家族で同じものを、同じ方法で、同じ場所と時間で食べる

食事は、心を満たす心理的エネルギーの補給。言い換えれば、“心が安らぐ場所”です。そうした観点から、栄養面や調理の手間はさて置き、食事を通じて“みんなで同じを共有する”ことが大切です。子どもはみんなで“ああ、おいしい”という体験を共有することで満足を知ります。一緒に食事をする大人の様子や食べ方を見て真似をします。お箸が使えるようになり、残さず食べることを褒められると、そのことが心に刻まれ嬉しくてお腹も心も満たされます。そんな心地よい体験の繰り返し、子どもの身体と心を育てるのです。



食べることと家族と育ちの関係

食事とコミュニケーションのはじまり

食事は、単なる生命を維持するための活動ではなく、同時にコミュニケーションの役割も担います。たとえば生後すぐの赤ちゃんの視力は0.01~0.02と言われ、それは授乳中にぼんやりと母親の顔がわかる程度です。つまり、赤ちゃんの頃から生体的には、「食べること」を通じて「愛着関係を形成する」といったことが、セットになってはじまっているのです。



家族の団らんが言語能力を育む

食卓を家族で囲む毎日の食事には、他愛のない会話がたくさんあると思います。そんな日常の話をみんなですること、家族の心がつながっていく。そうした「団らん」のなかで子どもは栄養だけでなく、言語能力や社会情動的スキルを育てていきます。

料理は、作る→食べるの一方通行ではなく、相互関係で成り立つもの

子育て家庭のごはんは、必ずしも美味しいことが求められるわけではありません。子どもにとっては食べるだけでなく、料理を作る過程を見たり、お手伝いをしたりと、食べるまでのプロセスにも豊かな人間性を育む機会があります。例えば「お米は水で洗うんだね」「オムライスってそう作るの」といった生活の過程そのもの（作る→食べる）の経験が、子どもの頭や心の栄養になります。作る→食べるの相互関係が、「育ち」につながります。

離乳食スタートのきっかけは“大人への興味”

離乳食のはじまりは、^{えんげ}嚥下や消化等の機能的な側面と、「親が食べる様子や食べるものをじっと見つめ、よだれを出したりする頃」という関係的な側面で語られます。「食べること」と「子どもと保護者（大人）との関係」は深く、ずっと続いていきます。

台所の記憶

初めて「台所」に立った時のことを覚えていますか？子どもが「精一杯“生きる力”を遊ぶことに費やせるのは、親が子のために時間を割いて料理し、食べ物の心配をすることなく安定して食べられるからです。「台所に立つ」のは、家族の“食”すなわち“生きること”を預かって、誰かの生を支える側に立つということ。子ども心に深く刻まれた台所の記憶は、子どもにとっては無自覚であっても、その子の生活の安全・安心を支えており、心身の育ちを支えます。



家の外で“食べること” と“育つこと”

05、06ページで、家庭内での『食べること』の力に触れました。
次は、家の外での『食べること』を見てみましょう。

外で食べることの楽しみ

幼稚園の昼食で、お弁当のおかずが友達と一緒に嬉しかったり、自分たちで育てた野菜が給食に出て、苦手だったはずの野菜が食べられたり、お泊り保育で食べたごはんが忘れられなかったり。家の外での食事は様々な要素が絡み、家庭での食事とは楽しみ方が変わります。誰かとどこかで、何を食べたかという“共有する満足感”は、心の育ちに大きく寄与します。



いつもと違う雰囲気を感じ方

外食にも様々な種類があり、子どもは子どもなりのTPOが求められる。肩肘はらないカジュアルな外食、緊張感のある結婚式などのフォーマルな場に行くこともあるでしょう。場の雰囲気を感じ取る子や大人の変化を読み取る子など、子どもの振る舞いは様々です。大事なことは“場が違う”ことを経験として重ねること。場の雰囲気やマナーに合わせてくれることは社会性の育ちの指標のひとつ。大人自身もTPOのモデルとして振舞いつつ、子どもにも場に応じた緊張感やリラックス感を伝えてあげましょう。その経験が子どもの社会性や自律心を育みます。



食事と季節

旬の食材、夏のそうめんや冬の鍋…。食べることは生活そのものであり、子どもは生活から学び、育ちます。「夏になるとスイカが美味しいね」「柿がたくさんなったし、むいて食べよか」「冬至やし、カボチャ炊いたん」といった季節や旬を感じる食卓は、その食事を受け取る側の情緒を育てます。

食事の“ええかげん”

「ええかげん」は、本来は「良いでも悪いでもない、ちょうど良い加減」を指します。お弁当の見た目に気合を入れ過ぎていませんか？「子どものため」と思い、自分の料理にプレッシャーをかけ過ぎていませんか？「子どもが好きだから」と買ったものばかりになっていませんか？「ええかげん」は、自分で決める必要があります。子どもの「食べる」と「育つ」について、栄養、生活、情緒、発達など様々な側面から考えていきましょう。



Q 食べることと育つこと Question & Advice

答えじゃないよ
アドバイスだよ



Q 家では食べないのに、幼稚園だと食べる。どうして？

A 友達や先生と“みんなで一緒”という楽しさやその場の雰囲気など、食べ物以外のものが食を促すスパイスになっているからです。

Q 毎回作るのが大変です。

A 「同じものを同じ場所で～」の解釈で言えば、手料理でなければいけないことはありません。けれども「作る過程」にふれることは、子どもにとっては魅力的です。なので「作ってあげたい」と思える余裕を持ちたいですね。例えば子どもと遊ぶ力を加減してみたり、仕事が休みの日にお料理をするなど、自分で調整してできる範囲で作ってみては。

Q 料理が苦手。自分で作ったものより、買った離乳食の方が、栄養価が高い気がして…。

A 愛情の受け渡しという観点で、自分の手で作る価値を、ご自身が認めてあげてください。家庭料理は愛情。心身ともに余裕のある時に、チャレンジしてみてください。

Q フォークやお箸の持ち方は、ちゃんとした方がいい？

A 「お箸が使える」「きれいに食べる」ことはカッコいいことで、褒めてもらえることであるのは伝えて欲しいです。大人を見て真似しようと思った心の動きもGoodです。ただ、“食べる楽しさ”や“満足”を考えると優先順位が下がることもあります。

Q 「嫌いなもの」どうすれば？

A 「嫌い」の理由は味や食感、見た目だけではありません。逆に「好き」も、「○○ちゃんと一緒にだから好き」「自分で育てたトマトは好き」と、子どもの好き嫌いは、いろいろなところに結び付いている可能性があります。「嫌いなら食べなくていいよ」と言ってしまうと、好きになるチャンスをなくしてしまうので、かわいいピックをさしてみたり、大好きな人形に「美味しい」と言ってもらったり、工夫することで、意外なところに突破口があったりします。

私を育てたところのねっこ ～愛することで花開く～

京都府私立幼稚園連盟は、今年80周年を迎えます。子どもたちが、これからの未来を生きていく上で、それぞれの子どもがもつ個性を育み、いろんなものに興味を広げ、人としてのねっこの部分が自らの力で育つように、連盟では様々な幼稚園、こども園が力をあわせて取り組んできました。人として、大切なねっこの部分を育てる、それはいけばなにも相通じるものがあると思われまふ。京都でいけばなの家元の家系にお生まれになり、京都で育ち、家元としていけばなに向き合い、人に向き合うなかでいけばなを文化として発信される一方、自らも子育てをする父として活躍されておられる華道未生流笹岡家元の笹岡隆甫さんをお招きし、ご自身の経験と子どもの育ちについてお話をお伺いしました。

幼い頃の思い出、 いけばなの家元として

長澤: 笹岡さんは、どのようなお子さんだったのでしょうか。幼稚園の頃の思い出などはございますか。

笹岡: 私は、カトリック系の幼稚園に通っていました。家の近くにあって、姉がいらっや

る雰囲気をお母さんが好んだのではないかと思います。シスターは生活態度など厳しく指導をされるわけですが、子ども心に困った時には必ず助けてくれるというような安心感がありました。幼稚園の先生というのは恐らく、子どもが1番最初に触れる肉親ではない大人ということで、その先生に守ってもらった経験みたいなのは大きいだろうなと思います。今でも、担任の先生の名前と顔はしっかりと覚えています。



長澤: 笹岡さんは、いけばなの流派である未生流笹岡の家元のお家にお生まれになったわけですが、ご両親からは子どもの頃から家元を継ぐようにと育てられたのでしょうか。

笹岡: 前家元であった母方の祖父が私の師匠にあたり、祖父から代を継ぎました。いけばなを始めたのは2歳とか3歳ぐらいの頃です。今、私のお稽古場にお越しになる方に、小さなお子さんをお連れの方もいらっやいます。2歳ぐらいになるとお子さんでも紙切りバサミが持てるようになり、大人がいけばなをする様子を見て「私もしたい」と言い出し、親の膝の上で枝を切っていけるまねごとをしています。恐らく私も幼い頃は、そのようにしてお稽古をさせてもらったと思います。

長澤: ご両親は家を継ぐというより、好きな進路に進みなさい、というような教育をされていたとお聞きしました。当時のお家元であるお祖父さまは後継を育てるために、厳しくご指導されたのでしょうか。



笹岡: 祖父から厳しくしつけられることはありませんでした。私が小さい頃は母から教わり、お花は遊びの一環として習っていました。私の子どもも幼稚園、小学校の友達と一緒に稽古場に行って遊びの一環として花に親しんでいます。

長澤: 幼稚園では、そこにある環境が子どもの育ちにすごく影響を与えます。笹岡さんのお家では、花が遊び道具になっていたということで、自然にいけばなを継がれる環境ができていたのでしょうか。

祖父母から教わった、 美と生の心持ち

笹岡: 家元である祖父から初めていけばなの技を教わったのは、小学校に上がる前でした。ひまわりのお花を器に挿していた時に、花の顔が下に向いているのを見た祖父が「うつむいたらあかん」と声を

かけたのです。それを耳にした私は、その花の顔を反転させて器に挿し直しました。すると、さっきまでだらしなかった花が急にシャキッと元気になった。そして、いけばなは、優れた技術なのだと感じました。私は、家元の後継ぎとして誰よりも上手になりたいと思って鍛錬を続け、技術を磨き、大学院に入る頃には人に教えていました。それまでは、技術を磨くことが何よりも大切だと思っていましたが、いざ、教え始めると周りの先生方が見えてきます。多くのお弟子さんは、技術だけではなく、先生の人柄に惹かれてついていくんだということに気づきました。大切なのは人の魅力だということを感じたんですね。私の祖母は、若くして亡くなる直前まで前向きな生き方を貫いた人でした。入院中、誰よりも重い病を抱えているにも拘わらず、周りの患者さんを励ます明るく前向きな人でした。何よりも自分自身が人生を謳歌したいという気持ちを最後まで持ち続けた祖母の生き方は、まさに祖父が言った「うつむいたらあかん」に通じると思っています。



祖父母から愛をもって育てられた、幼少頃の笹岡隆甫さん

長澤: やはり、子どもに関わる人であり、環境というのがとても大切ですね。

笹岡: 春の花はすごく元気でチューリップや菜の花は、寝かせていても顔が太陽の方に向けて伸びていきます。人間は弱い動物だから、失敗をする度に下を向いてしましますが、辛い時や悲しい時こそ太陽の方を向いて伸びる花のようになりたいと思います。祖父の言った「うつむいたらあかん」という言葉、そして祖母が生き方を持って実践した姿を見て、花を師匠として、人としての生き方を学ぶのがいけばなではないかと思うようになりました。



撮影:岡本隆史、画像提供:スパイラル/株式会社ワコールアートセンター

今、子どもたちに伝えたいこと

長澤:親としては、子どもの幸せを願うあまりについ過干渉になりがちですが、お子さんが自分で道を選べるようなご家庭での雰囲気づくりも大切ですね。

笹岡:私も妻も子どもに関しては、好きなことをしなさいと言っています。幼稚園では、いろんなことを経験できるのがとても良いと思います。園の絵画の発表会で、3歳児が自分の体に絵の具を塗らたくって遊んでいる写真を見せてもらいました。家ではなかなかできないことをやらせてもらえる。こういう経験を通して、心が豊かになると思います。私も幼稚園でお花を教えることがありますが、実際に花をいけてみるとみんな花との向き合い方が変わるんです。普段道端に咲いている花に目をとめるようになり、親御さんが驚かれるくらいです。

長澤:幼稚園でも、花など実物に触れて、体験するというのを大切にしています。摘んでしまっても許される、そういう体験ができるのが幼稚園であり、こども園です。

笹岡:私たち大人が教えることと、子どもたちが受け取ることは同じでなくてもいい。もちろん綺麗にいけるのも大事だけれど、本当に大切なのは、命に直に触れること。いけた花を持ち帰って、その花が変わっていく姿を最後まで見届ける。朽ちて枯れていくところまで、花の世話をすることがとても重要です。花が弱ったら、少し切っていけ直すともた元気になる。今からほころぶ蕾のような子どもたちにとって、命を失くすことを考える機会は少ない。だからこそ命の尊さ、人の痛み、花の痛み、動物の痛みを感じ取ることがすごく大切だと思っています。また、人間と自然は対立する存在ではなく、私たち人間も自然の一部である、という価値観を発信することも私たち親世代の役目だと考えています。

多様な価値感が息づく、 京都ならではの魅力

長澤:私たち京都に生まれ育ったものは、京都の文化や歴史を誇りに思っていますが、笹岡さんは京都に関してはどうにお感じですか。

笹岡:京都の魅力の一つは、古典が今も息づいている町だということです。文学に読まれているお寺や

神社もたくさん残っていて、昔の人の考え方や価値感に触れられるのは楽しいですね。一方で、古典と同じく現代がしっかりと息づいているのも魅力です。北と東と西を山に囲まれた町中に、お茶とかお能とか踊りとか、たくさんの分野の人たちがひしめきあうように暮らしていて、新しいものを創ろうということを普段から気負わずにできる。文化は、人と人がぶつかり合うところに生まれます。そうした環境が整い、世界遺産などもすぐ近くにあるところに幼稚園や学びの場があるというのは、京都ならではの魅力だと思います。



長澤:華道でも茶道でもいろんな流派がたくさんあるのと同じように、京都に多様な幼稚園、こども園があります。

笹岡:多様な選択肢があるというのは、豊かなことです。京都府は子育て環境日本一を掲げているので、ますます幼児教育の重要性は増していくと思います。

長澤:保護者の皆さんにとって時に、子育てが大変と思われることもあるでしょうが、子どもを育て、その成長に直に触れることができるといった喜びは、かけがえのないものだと思います。子どもとともに過ごす時間を大切にしてもらいたいですね。

笹岡:お父様、お母様方が大変苦労されているので、いろんな面で子育てをサポートできるシステムができるといいですね。親としては子どもにいろんな経験をさせたいという気持ちがあります。その経験は、すぐに実るものではありませんが、経験しておくことが、すごく大きいと思うんです。花をちょっと触ってみるのもそうですし、スポーツでもいい。本当にいろんな経験を子どもたちにさせてあ

げたいと思います。幼少期の経験は、随分大きくて、幼稚園とか小学校の低学年とかで、ちょっとやったことというのは、なにか残るんですよね。うちの娘は、今、クラシックバレエを好んでやっています。生活の真ん中にバレエがあって、それをするから他のことも頑張れるといったところがあるようです。子どもたちには、自分の好きなことを見つけて、のびのびと育ててほしいと思います。

長澤:笹岡さんのお話をお聞きし、家族って温かい、子育てって楽しいと思っただけのように、私たちも力をあわせてがんばっていきたくと思います。そして、子どもたちが何か好きなことを見つけて、幅を広げていけることを大切に、将来に向けてしっかりと歩む力を自らの力で身につけていけるように、「こころのねっこ」を育てていきたいと思えます。本日は、ありがとうございました。



笹岡 隆甫 ささおか りゅうほ

1974年京都生まれ。京都大学工学部建築学科卒業。3歳より祖父である二代家元笹岡勲甫の指導を受け、2011年、三代家元を継承。舞台芸術としてのいけばなの可能性を追求し、日本-スイス 国交樹立150周年記念式典をはじめ、海外での公式行事でも、いけばなのパフォーマンスを披露。2016年には、G7伊勢志摩サミットの会場装花を担当した。近著に『いけばな』（新潮新書）。華道「未生流笹岡」家元。京都ノートルダム女子大学客員教授。大正大学客員教授。京都市教育委員会委員。京都市の「DO YOU KYOTO?」大使として環境破壊防止を呼びかけている。朝日新聞大阪本社版夕刊「笹岡隆甫の華やぐ十二月」、ウェブマガジン「ほんのひととき「笹岡隆甫 花の道しるべ from 京都」」を連載中。

☆☆☆
こころのねっこ
SHOW

人として大切な“ねっこ”を育む幼稚園。
 そんな幼稚園で過ごす子どもたちの日頃の姿を、
 『こころのねっこSHOW』としてご紹介します。



エイエイオー!みんなで
やればできる!でショー



ふたりとも夢中になって…
なにを読んでいるのでショー



こっそりのぞき見! 舞台の
上はまさにワンマンショー!



カメラに目もくれないなんて、
すぐ夢中でショー



小さな先生、
教え方が優しいでショー



いろんな形のキュウリがあるね!
全部で何グラムでショー

お遊戯室で遊びまSHOW
 幼稚園には、お遊戯室のような大きなお部屋等
 もあります。活動によって、場所や人数を工夫
 しながら取り組みます。写真のような場面に
 出会った時、どのような声掛けをしますか?



くずれないように気をつけて、
完成をめざしまショー



ぼくもわたしもぎゅっとしたい!
この気持ちわかるでショー

お部屋で楽しみまSHOW
 お部屋は子どもが安心できる場所。身近な
 場所だからこそ、いろいろな表情を見せてく
 れます。子どもたちはどんな会話をしている
 のでしょうか?想像してみてください。



お友達とハイ、ポーズ!
将来の宝物になるでショー



ロスフラワーでアレンジメント
どの花みてもきれいでショー!

園庭でワクワクしまSHOW

園庭は子どもにとって遊び込む場所。本気で遊ぶからこそ、自ら考え、働きかけ、豊かな学びの場となります。遊びには子どもの考えや工夫がいっぱい!ぜひ、みつめてください。



● これ1枚敷くだけで
すごくよく滑るでショー



● 夏の水遊びはサイコー!
気持ちいいでショー



● あそこまで届くかな?
ドキドキ!?でショー



● 汚れなんてへっちゃら!
最高のジャンプでショー



● 大自然のアート、
大人も顔負けでショー



● あった〜4つ葉のクローバー!
これぞラッキーでショー



● BBQ、この上で
お肉を焼きまショーか?



● 大きすぎる!この大根
抜けないでショー(^^;)

☆☆☆ こころのねっこ SHOW



● さぁSDGs!みんなで
土にかえしまショー



● 登りは大変だったけど
帰りは楽しくでショー

園外を体験しまSHOW

園外に出かけ、いつもとは違う環境に出会うことで、子どもの心を豊かに育てます。時には非日常も、子どもの育ちに大切な変化の1つです。皆さんはどんなタイトルをつけるでしょうか?

おとうさん、おかあさん いっしょにおそぼうよ。

手遊びって
楽しいな

動画を見ながらできる遊びに絵本の紹介、「こころのねっこ」のオリジナル
ソングまで!時間を見つけていっしょにお子さんと楽しんでみませんか。
遊びを通じて、子どもたちの“こころのねっこ”はぐんぐん育ちます。

動画で幼稚園の園長先生と
先生方が簡単な手遊びを紹介!
ぜひ、家族みんなでやってみてね!!

動画を見ながら
遊んでみよう



親子のふれあい
遊びにピッタリ!

『あたま・かた・
ひざポン』

リズムに合わせて
Let's Dance
『ばんだうさぎ
こあら』

過去に紹介した
楽しい遊び動画



Vol.4

使うリズムは、3拍打ちと7拍打ち
「手をたたきましょう」の曲で
楽しくリズム遊びをしましょう!



Vol.5

こころのねっこオリジナルの
手洗い歌です。お歌にあわせて、
手を洗って、ピカピカにしよう!



Vol.6

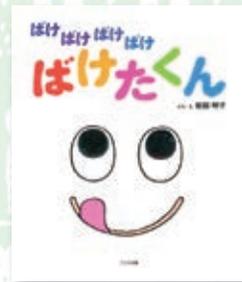
親子や友だちと
日本伝統の遊びに触れてみよう!
優しいお姉さんが分かりやすく解説!

おすすめ えほん

POINT!

過度な表現は控えましょう

「大きな声」や「絵本を大きく動かす」等の過度な表現は、読み手への印象だけが残ってしまいます。絵本を通して豊かな想像力を広げられるように、「音量」や「スピード」を工夫してみましょう。



ばけばけばけばけ ばけたくん

作・絵:岩田 明子 出版社:大日本図書

くいしんぼうの「ばけたくん」は、夜中に誰かのおうちでつまみ食い…。すると「あれあれ〜!」っと「ばけたくん」は変身してしまいました!ページをめくるたびに、どんな変身をするのかと、想像力が膨らみます。



バスがきました

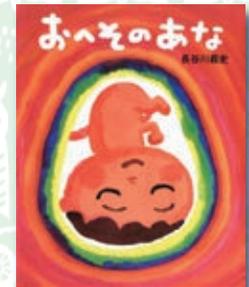
作・絵:三浦 太郎 出版社:童心社

子ども達が大好きな「バス」。次々と変わった形のバスが現れ、テンポよく進むので、一度ハマれば何度も繰り返されること請け合いです。パステルトーンと直線、曲線、丸、四角で構成されたシンプルなデザインが、目に楽しい絵本です。

POINT!

余韻を楽しませてあげて

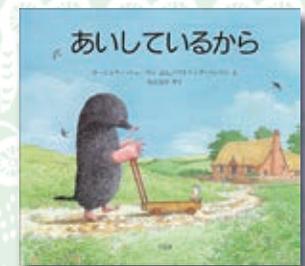
読み終わったから次のページに移るのではなく、そのページを満喫してから次のページに移りましょう。また、読み終わった後も、子どもは「余韻」を楽しみます。文字が書いてなくても、ゆっくり裏表紙まで見せてあげてください(絵本によっては裏表紙までお話が続いている作品もあります)。



おへそのあな

作・絵:長谷川 義史 出版社:大日本図書

おかあさんのおなかの中にいる赤ちゃんは、たくさんの人に見守られて、可愛がられて、望まれて、産まれてくる大切ないのち。赤ちゃんが祝福されて誕生するまでを描いた、心温まる作品です。



あいしているから

作:マージョリー・ニューマン 絵:パトリック・ベンソン
訳:久山 太市 出版社:評論社

巣からおちたひななどをみつけたモールくん。でも、野生の小鳥はペットにはなりません…。誰かを本当に愛するということは、相手にとって一番必要なことをしてあげること。たとえ自分にとって、どんなに辛いことでも…。愛することの本質を教えてくれる絵本です。



「こころのねっこ」

オリジナルソングができました!



音源はコチラ!

子どもは、自分の「名前」を呼ばれることで、こころを通わせ、人々に「認められている」ことを感じとり、のびのびと安心して過ごせる環境を見出します。そうした環境の中でこそ、自由で積極的な「個性(心)」が育まれ、自分の気持ちを素直に表現できます。それは、子どもも大人も一緒です。しっかりと育まれたこころのねっこが、竹がて葉をしげらせ実をつけられるよう、ありのままの姿を受け入れ、よりよい、ともに歩み成長していける…。そのような、子育てへの想いを、優しい歌詞で表現しました。ぜひ、親子でこの歌を聴き、口ずさんで、日常の幸せを感じていただければ幸いです。

「こころのねっこ」

作詞:こころのねっこ制作委員会 作曲:松嶋 聖児

あなたの名前を呼んでくれる人が
あなたのこころをきって強く育てる

嬉しいときにも楽しいときにも
ねえ そばにいるよ 一緒に歌おう

鳥の歌も山や土の色も
たいせつな言葉も大好きな笑顔も
ありのままの君と過ごす時間が
全部こころのねっこになるのでしょう

悲しいときにも困ったときにも
ねえ そばにいるよ 一緒に笑おう

大丈夫 ほら
そこに優しさの種はちゃんと芽吹くよ
手をつなぎ歩もう
胸の中にそっとあたたためてごらんよ
さあ はじめよう

星の声も海や空の色も
さよならの言葉も大好きな仲間も
ありのままの君と過ごす時間が
全部こころのねっこになるのでしょう

世界中で一番 君が大好き!

あなたの名前を呼んでくれる人が
あなたのこころをきって強く育てる

「こころのねっこ」

※1番の歌詞の抜粋

F C Dm Am B^b F G7 C
あなたの なまえを よんでくれる ひ とが

5 F C Dm Bdim7 F C7 F B^b
あなたの こころを きつとつよく そだてる うれしいと

10 C A7 D7 Gm Gm7(b5) F F#dim7
きにも たのしいとき にも ねえ そばにいるよ

15 Gm G C F Dm
いっしょにうたおう とりの うたも やま

20 B^b C A7 Dm E^b
や つちの いろも たいせつな ことばも だいすきなえ

25 C F Dm B^b C
が おもりの ままの きみと すごすじかんが

30 B^b C Am Dm B^b C B^bm F
ぜんぶ こころのねっ こに なるのでーしょう



「舞鶴子どもコーラス」は2022年6月、舞鶴市で新たに発足した、市内に住む子どもが対象のインクルーシブな音楽活動団体です。歌や音楽が好きな子どもはもちろん、仲間と繋がりを探している子どもたちにとって居場所となることを目指しています。ぜひ私たちの歌声を聞いてください。



たからもの

幼児期は子育てに関わる大人、とりわけ親にとって、自我が芽生え始めた子どもと向き合うという興味深い時期です。子どもが「イヤイヤ」をいいたしたら、自分を主張し始めた証拠。ヒトとして順調に成長している、まさにその瞬間に立ち会っているとイえるのではないのでしょうか。

子どもの手足を引っ張ってもからだが大きくならないのと同様に、子どもの気持ちを無理に動かそうとしてもこころは豊かに育ちません。逆に子どものこころの動きがわかれば、大人にとっては手を焼くようなふるまいも、むしろ微笑ましく、時には頼もしくさえも思え、子どもへの接し方も変わってきます。子育ては、子どもの成長に関わることで私たち大人も育っていく、とても貴重な機会でもあるのです。

草や木がおひさまの光を浴び、水や栄養を吸収して大きく育つように、子どもがお父さまやお母さまからたっぷり愛情を注がれ、一緒に笑ったり泣いたりすることで「こころのねっこ」が豊かに育ちます。そうした日々の小さな命の営みに、子どもだけでなく親もかけがえのない幸せを感じられることでしょう。

京都府私立幼稚園連盟は子どもと、幼い子を持つご家庭とともにこの80年間を歩んできました。幼稚園には子どもをまんなかにして、思いを同じくする仲間がいます。子育ての道しるべを示してくれる先輩パパやママ、子どもの気持ちに寄り添う経験豊かな先生、子どもと一緒に遊んでくれるフレッシュな先生。多くの方が子育てに関わってきた時間と経験は、私たちにとても何にも代えがたい「たからもの」となっています。この大切な「たからもの」を未来につないでいけるよう、私たちはこれからも子育て真っ最中のご家庭を応援していきます。

子育ては 育てるつもりが育てられ 大変な時が大切な時
～京都の私立幼稚園は子どもと向き合うご家庭を支えます～

(公社)京都府私立幼稚園連盟

「こころのねっこ」バックナンバー

全バックナンバーは
こちらから!!



創刊号

Vol.1

●こころのねっこを育てよう●乳幼児期に育てておきたいこと●遊びは、人を育てる栄養になる●ママの座談会●おとうさん、おかあさんいっしょにあそぼうよ●幼稚園のこと、もっと知りたい



Vol.2

●こころのねっこを育てよう●乳幼児期に育てておきたいこと●遊びは、人を育てる栄養になる●ママの座談会●幼稚園の一年ってどんなことをするのか?『先生のひろば』Q&A●おとうさん、おかあさんいっしょにあそぼうよ●幼稚園のこと、もっと知りたい



Vol.3

●こころのねっこを育てよう●乳幼児期に育てておきたいこと●イヤイヤ期ってなに?●ママの座談会●子どもってすごい!!子どもっておもしろい!!●おとうさん、おかあさんいっしょにあそぼうよ●幼稚園のこと、もっと知りたい



Vol.4

●こころのねっこを育てよう●乳幼児期に育てておきたいこと●いっしょにおおきく、いちに・さんぽ●ママの座談会●毎日の遊びが学び!ようちえんでのきごと●おとうさん、おかあさんいっしょにあそぼうよ●2019年10月より幼児教育の無償化が実施されています



Vol.5

●こころのねっこを育てよう●乳幼児期に育てておきたいこと●わが家のスター?モンスター??●先生の座談会●幼稚園の四季折々●おとうさん、おかあさんいっしょにあそぼうよ●2019年10月より幼児教育の無償化が実施されています



Vol.6

●こころのねっこを育てよう●乳幼児期はねっこが育つ重要な時期●親も子もみんなで沼れ!!おにごっこ●先生の座談会●幼稚園ではどんな風に遊んでる?●おとうさん、おかあさんいっしょにあそぼうよ●幼児教育の無償化などが実施されています